

# 教会短信

2006年2月5日

No. 7

牧師 間瀬 善彦

最近のライブドアとホリエモンに関するニュースを聞いていて考えさせられることがあります。ホリエモンは、若者たちがやる気さえあれば会社を起し、事業家になることができるのだという希望を与えた人でした。それで、一時は、「時代の寵児」とか「勝ち組の代表」とか言われて、若者たちの憧れの人でありました。

しかし、その一方で、彼は著書に「人の心はお金で買える」と書き、お金で買えないものは何もないのだと日頃から公言する人でした。いわゆる拝金主義を世に宣伝し、そのあげくは、不正によって株価を操作し、莫大な利益を得てきたのではないかと、というのが今回の逮捕容疑です。

たしかに、わたしたちが毎日生活をしていくためにはお金が必要です。お金を稼ぐために一生懸命働くことは当然のことです。大切なことは、自らが額に汗をして働き、その稼いだお金をどのように使うのか、ということだと思います。

聖書の中に、ある金持ちの話があります。彼は大変な金持ちであり、青年でもありました。若くて人望があって、しかも裕福だということですから、今はやりのセレブ青年、人のうらやむような人でした。しかし彼はイエスのもとに走り寄って来て、非常に真剣な気持ちで尋ねました。「何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と。彼は、自分の持っている若さも財産も、また人からの尊敬も、すべてが自分の命を保証してくれないことに気づいていたのです。永遠の命とは、神の国に入れられること、魂の救いが与えられるということです。彼は、若さや財産や名誉によっては、永遠の命が与えられるという確信が持てずにいたのです。

イエスの答えはこうでした。「持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる」。彼は、これを聞いて非常に悲しみました。大変な金持ちで、お金を手放せなかったからです。だれでもすべてを売り払って人に施すことは困難に感じるでしょう。ここでイエスが言いたいのは、わたしたちの周りで困っている人を助けることによって、天に富を積みなさいということです。そのような人こそ、神は神の国に迎え入れてくださるのです。わたしたちは得たお金をどのように用いるかによって、その人の生き様が表れてきます。

## シスター・ロザリーの詩

あなたが今日まで生きてこられたその中に  
何人の人の汗があったでしょう  
何人の人の涙があったでしょう  
何人の人の愛があったでしょう。

この詩は、ある人の結婚式の時に司式をされた牧師が紹介された詩です。私はこの詩に深い感銘を受けました。この詩を詠まれたシスター・ロザリーは、日本人だと言うことなのですが、詳しいことは分かっていません。

人は独りでは生きていけないことは分かっていました。しかし、この詩に出会ってから、今までどれ程多くの人に育まれ、愛され、助けられてきたことか、そして、今の私が存在することを痛感しました。

私のために汗を流してくれた人のことを考えてみました。両親、祖母、伯母、夫、子供、それに目には見えないけれど、神様です。

私のために涙を流してくれた人のことを思い出してみました。両親、祖母、伯母、妹、子供、友人、それに目には見えないけれど、神様です。

私を愛してくれた人のことを考えてみました。どんな時でも、私を無条件に愛してくださった神様です。それに、両親、祖母、伯母、夫、教会の友、子供、友人と数えきれない程の人がいました。

私は今日まで多くの人に支えられて生きてこられたことに深く感謝しています。



## 優しさとは、思い遣りとは

「優しいとは、人が憂うと書く。優しいとは、憂いを沢山持っている人の方が、優しさがあるのではないか。そうした点から言えば、都会の人の方が、厳しい中から多くの憂いをもち、優しさも持っている」。

筆者の好きな作家の、ある小説の中の一節である。都会の人、田舎の人という差別は分からないし、分かれようとも思わないが、人・人・人で埋まる都会の人の方が、確かに憂いは多いのでは、とは思ふ。しかし、忙しくて、慌しくて、憂いを感じる暇もないのでは、とも思ふ。因みに、忙しいとは心が亡びると書き、慌しいとは、心が荒れると書く。(りっしんぺんは心)

こんなことを考えながら、ある日のこと、渋谷駅前から、新宿西口行きの京王バスに乗った。と、70歳過ぎの男の人が乗車口に来て、

「何時、出発？」

「12時です」と、若い運転士（最近、サービスプロバイダーというそうだ）

「あと、何分？」と、老人。

「2分です」・・・少しやりとりがあり、

「聞こえないッ！」

と、怒鳴って行ってしまった。運転士さんは、さぞむかついたことだろう。乗らなかったのだから、客ではない。そのやりとりを聞いていて、筆者は頭へ来た。“甘ったれるな年寄りよ、何だその傲慢な態度は”。ガッツ石松ではないが「それが人にもものを訊く態度なの？」こっちが降りて行って、怒鳴りつけてやりたくなった。

「あなたは、よくできた人だ。よく我慢したね」と、その運転士に声をかけた。

「いいえ、よくあることですよ」

と、言う。人を思い遣る心なのか、優しさなのか、客を扱うプロのマナーなのだろうか。

営業上の微笑み、とか、お世辞などと、よく言われる言葉だが、何とも憎たらしい老人であり、心優しい運転士君だと眺めていた。

年寄りにいたわりの心を、優しさを、は確かに必要なことであろう。が、しかし、それを受ける側の年寄りにも、感謝と素直さが必要なのではないだろうか、「するのが当たり前」では社会は円滑に進まない。

少子高齢社会、成人4人が老人1人を扶養しなければならない時代が、やがてやって来る。などと考えながら、運転席の上を見たら、“人にやさしい京王バス”という、スローガンが書かれていた。

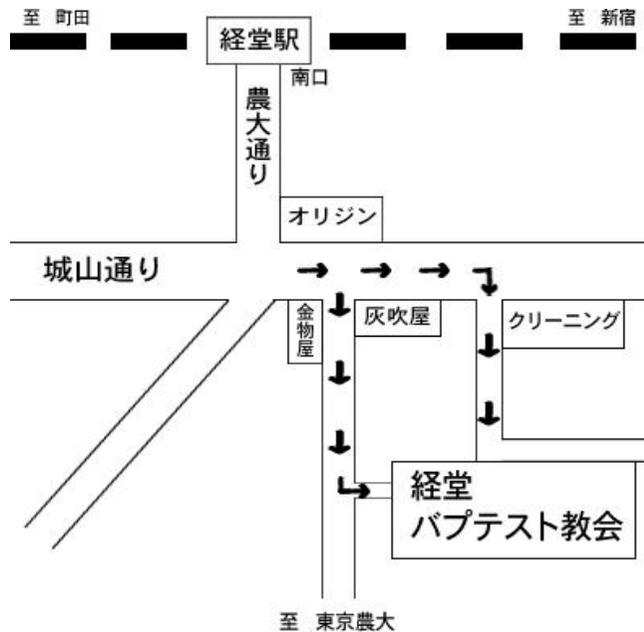
「悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。－いつも善を行うよう努めなさい。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」

(テサロニケ I 5-15~18)

この聖書の中のみ言葉を読み、またも自分は失格者である、と、反省せざるを得なかった。

# 集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



## 経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。